

滝川市長 前田 康吉 様

滝川市の環境施策に関する評価報告及び提言書
(案)

滝川市環境市民委員会

平成27年11月24日

1 趣旨

この評価報告及び提言書は、滝川市環境基本条例第 29 条の規定に基づき、滝川市環境市民委員会（以下「委員会」という。）として調整した評価及び提言などについて、滝川市長に対して年に 1 度、提出するものである。

なお、ここで評価対象とするのは前年度（平成 26 年度）の取組に対する評価を含め、計画期間内での施策などの進捗状況についてである。

2 平成 26 年度までの取組などに関する評価について

平成 26 年度までの取組に係る評価については、別添「評価シート」(資料 2－1～4)のとおりとし、特に次の点について評価する。

ごみの減量化及び収集業務の安全性の確保等のため、平成 26 年度から新たに「雑がみ」やスプレー缶などの「特定品目」を追加するなど分別の見直しを行い、ごみガイドブックの全戸配布等による市民周知を行った。その結果、前年度と比較してごみ排出量が約 6.8%減少し、リサイクル率が約 0.9%増加したほか、平成 26 年度に行った滝川市民を対象とした環境に関するアンケート調査において、ほとんどの市民がごみを積極的に分別し、エコバックを使うようにしていると回答するなど、市民のごみに対する意識が高まっていることを評価する。

3 今後の取組に向けた提言について

今後に向けたあるべき姿や方向性、検討を要望する事項については、次の点を提示する。

①平成 26 年度から、新たに「雑がみ」や「特定品目」など分別の見直しを行ったが、今後ごみ排出量、リサイクル率の数値達成に向け、引き続き周知に努め、市民にごみの分別・収集方法について、理解を求める必要がある。

②環境学習リーダー養成講座は、対象を高校生ボランティアとした「エコ部！」として活動を広げ、リーダー養成と併せて、小学生を対象とした環境教育を推進するなど、一定の成果があったことから、今年度の検証を行った上で次年度以降も継続を要望する。

③市の公共施設のエネルギー消費量減少のため、市内小・中学校の LED 照明の導入やふれ愛の里への小型風力発電などの設備を導入したが、今後も補助金などを活用しながら公共施設に省エネ機器や再生可能エネルギーを導入するとともに、市民に広く周知する必要がある。

委員会としては、今後、滝川市が環境施策を展開していく中で、以上の各事項について十分に留意し取り進めるよう要望し、報告及び提言する。

平成 27 年 11 月 24 日

滝川市環境市民委員会 委員長 石 川 美 雪